かき塾閉講式

習得した知識・技術を柿栽培に活かす

平成30年4月に開講した「豊橋かき塾」は12月22日、全5回の講習を終え、第六事業所で閉講式を行い29人の受講者を代表して縣貞男さんが繁原営農部長から講習終了証を受け取りました。

豊橋かき塾は柿栽培者の家族で今まで他で勤めていたが柿農家を継ぐ予定がある人、柿生産者の家に嫁いできた人など、これから柿を本格的に栽培しようとしている人を対象に柿の栽培や経営に関する基礎知識を習得する目的で愛知県東三河農業改良普及課の職員や柿部会役員、JA職員が講師となり講義や実習を行いました。中山康幸部会長は「柿は収穫期を除けば比較的自分のペースで作業管理できる品目。定年後のセカンドライフで栽培するのに適していると思う。部会員を徐々に増やしていき、次郎柿産地を盛り上げていきたい」と話しました。

講習終了証を受け取る縣さん(右)